

ムーンショット型研究開発制度に係る 制度の点検・見直しに向けた主な論点と方向性について

考え方

- CSTI有識者議員懇談会（木曜会合）及び戦略推進会議における有識者議員からの指摘や、各FAからのヒアリング等で得られたファクトを踏まえ、令和7年度以降後半5年間の制度点検・見直しを実施
- 運用・評価指針を改定し、戦略推進会議や5年目評価の議論、各目標におけるMS目標達成に向けた取組に反映

項目	○有識者議員からの指摘事項 ◇ファクト（調査票・ヒアリング）	運用・評価指針改定の方向性
「MS目標達成の見通し」の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ○2050年のゴールに向けたシナリオの必要性 ◇CSTI5年目評価実施要領に基づき「今後の見通し」をPDが報告（目標4, 5） ◇目標ごとに進め方・研究フェーズが異なるため、一律的なルールの適用が困難 	<ul style="list-style-type: none"> •PDの役割に、2050年のMS目標達成に向けた見通しを立てることを追記 •関係省庁の役割に、研究開発構想の見直しができることを追記
<p>研究開発動向や社会実装に関する情報収集・分析</p> <p>国際連携 国際標準化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の立ち位置の確認が必要 ◇BRAINは「開発戦略ラウンドテーブル」を実施 ◇他のFAも既存のシンクタンク等での研究開発動向調査などの支援を実施 ○知財・標準化戦略の推進主体は誰か ○各国のMS類似制度との比較の必要性 ◇目標4, 5は、後半に向けて将来の社会実装を見据えた国際標準化、海外実証、海外からの資金調達等に取り組む予定 ◇目標ごとに進め方・研究フェーズが異なるため、必要な国際連携の状況が異なる 	<ul style="list-style-type: none"> •関係省庁が構想を策定するにあたり、国際戦略の視点を考慮することを追記 •研究推進法人の役割に、情報の収集・分析にあたって、国際ベンチマークなど国際比較や規制・国際標準化への研究開発における対応状況を整理することを追記 •PDの役割に、社会実装、国際連携などの観点を含めたポートフォリオの戦略をPMや研究者と共有することを追記 •PD及びPMの国際連携に係る役割を、ポートフォリオを踏まえ、必要とされる国際連携を積極的かつ効果的に推進するに修正 （現行指針：海外の最先端研究者の取り込みや国際的な共同研究を積極的に推進する）

項目	○有識者議員からのご指摘事項 ◇ファクト（調査票・ヒアリング）	運用・評価指針等改定の方向性
<p>社会実装 / スピンアウト</p>	<p>○社会実装、スピンアウトの促進策は？ ◇目標4 藤川PMはスタートアップを設立 ◇目標4 藤川PMは全農等と連携。 ◇目標4 福島PMはCCUを研究する企業にスピンアウト ◇目標5 清水PM スタートアップ立ち上げ検討 ◇目標6 大森PM スタートアップ立ち上げ検討 ◇目標6 古澤PM BRIGDE採択(R6)</p>	<p>・PMの役割に、国が策定した構想や、将来の研究開発成果の社会実装を見据えたポートフォリオの戦略を踏まえてプロジェクトを戦略的に実施することを追記 ・関係省庁の役割に、将来の研究開発成果の社会実装を見据えつつ関係する研究開発を戦略的かつ一体的に推進することを追記</p>
<p>人材育成</p>	<p>◇特に量子、フュージョンなど最先端分野では開発する研究者や利用する研究者の不足があることから、サマーキャンプへの参加や、海外への短期派遣などを実施</p>	<p>・研究推進法人の役割に、目標達成に必要な人材育成の支援を可能とすることを追記</p>
<p>上位戦略、他の戦略との連携</p>	<p>◇一部の目標では、各種戦略にMSの位置付けが明記されている（目標1 アバター、目標2 未病、目標3 A I ロボット、目標7 医療など）</p>	<p>・関係省庁が研究開発を推進する視点として、国の主要な戦略等に位置づけることも視野に入れることを追記</p>
<p>目標間連携</p>	<p>○目標間で共通する分野に対する連携の期待</p>	<p>・研究推進法人の役割に、効果的・効率的と思われる目標間の連携もできることを追記</p>